

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月17日

協議会名: 森町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
森町	運行系統:濁川線①(高校通 学便) 運行区間:濁川地区～森市街 地 運行回数:121回 運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円		A	計画通り事業は適切に実 施された。	【利用者数】 (目標) (実績) 1,400人/年以上>1,319人 【運行収入・支出等】 (目標) (実績) 濁川線 300,000円/年以上<338,500円 森町の支出(全系統合計) 8,000,000円/年以内<11,917,872円 【収支率】 (目標) (実績) 5.0%/年以上<5.20%	
森町	運行系統:濁川線② 運行区間:濁川地区～森市街 地 運行回数:139.5回 運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円		A	計画通り事業は適切に実 施された。	B 当初利用を予定していた方 の市街地への転居や高齢 利用者の死亡などで目標 数値をやや下回った。支出 についても、運行車両の整 備等で目標を超える金額と なった。一方でルートの改 善などで高校生など一定区 間の利用者を取り込むなど 交通空白地域の地域交通 の役割をしっかりと果たせ た。	・町民への周知を図るため、広 報やチラシなど周知回数が増 加を検討。 ・利便性の向上も踏まえて停留 所やルートの改廃も必要。 ・生活交通手段を維持・確保 し、地域住民の日常生活の移 動確保や地域間幹線系統との 接続による広域的な移動を図 るため今後も本路線は必要で あるが人口減による利用見込 も踏まえて今後の運行形態や ダイヤの検討が懸念される。
森町	運行系統:駒ヶ岳赤井川線 運行区間:赤井川地区～駒ヶ 岳地区～森市街地 運行回数:198回 運賃:地域外での移動300円 地域内での移動100円		A	計画通り事業は適切に実 施された。	B 【利用者数】 (目標) (実績) 1,200人/年以上>1,182人 【運行収入・支出等】 (目標) (実績) 駒ヶ岳赤井川線 250,000円/年以上<279,200円 森町の支出(全系統合計) 8,000,000円/年以内<11,917,872円 【収支率】 (目標) (実績) 5.0%/年以上<5.16% 利用者数については目標 数値をやや下回り、森町の 支出については目標を超え る金額となった。しかし、地 域交通の役割をしっかりと 果たせた。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月17日

協議会名：	森町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	森町は、幹線系統として鉄道とバス路線が運行しているものの、地域によっては、これら公共交通を利用するには自宅から移動距離が長く、交通空白地域が散見されている。また、令和5年4月に函館バス㈱が運行する濁川線が廃止となり、濁川地区においては森町市街地までの移動手段だけでなく、JR駅までの移動手段がなくなったため、地区住民の生活維持に向けては、町内交通の拡充が重要である。 そのため、住民の生活の足の確保に向け、森町市街地内を周遊し定期的に利用できるモビリティの確保と生活圏自治体である函館市までの重要な移動手段である鉄道や一般バス路線の利用者数の確保に向け、これら幹線系統との連動性を高めた町内交通を充実させることを目標に地域内フィーダー系統の構築を進めているものである。

森町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

森町は、幹線系統として鉄道とバス路線が運行しているものの、地域によっては、これら公共交通を利用するには自宅から移動距離が長く、交通空白地域が散見されている。また、令和5年4月に函館バス(株)が運行する濁川線が廃止となり、濁川地区においては森町市街地までの移動手段だけでなく、JR駅までの移動手段がなくなったため、地区住民の生活維持に向けては、町内交通の拡充が重要である。

そのため、住民の生活の足の確保に向け、森町市街地内を周遊し定期的に利用できるモビリティの確保と生活圏自治体である函館市までの重要な移動手段である鉄道や一般バス路線の利用者数の確保に向け、これら幹線系統との連動性を高めた町内交通を充実させることを目標に地域内フィーダー系統の構築を進めているものである。

地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線（本線）（森駅、赤井川駅、駒ヶ岳駅、石倉駅）
- ・ JR函館本線（支線）（渡島沼尻駅、渡島砂原駅、掛漕駅、尾白内駅、東森駅）
- ・ 函館バス(株)（町内2路線）
- ・ スクールバス（2路線）
- ・ タクシー（2社）

生活交通確保維持改善計画の目標

【利用者数】

- ・ 濁川線：1,400人/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：1,200人/年以上

【運行収入・支出等】

- ・ 濁川線：300,000円/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：250,000円/年以上
- ・ 森町の支出：8,000,000円/年以内

【収支率】

- ・ 濁川線：5.0%/年以上
- ・ 駒ヶ岳赤井川線：5.0%/年以上

協議会開催状況

令和6年4月17日 第1回会議(書面)を開催

主な協議事項 森町地域公共交通バスの今後の運行形態の承認可否について

令和6年6月17日 第2回会議を開催

主な協議事項 地域公共交通計画認定申請について

令和6年8月20日 第3回会議を開催

主な協議事項 今後の運行形態について

令和7年1月9日 第4回会議(書面)を開催

主な協議事項 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和6年度事業概要

○運行系統：濁川線①(高校通学便)

運行区間：濁川地区～森市街地 運行回数：121回

運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

○運行系統：濁川線②

運行区間：濁川地区～森市街地 運行回数：139.5回 運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

○運行系統：駒ヶ岳赤井川線

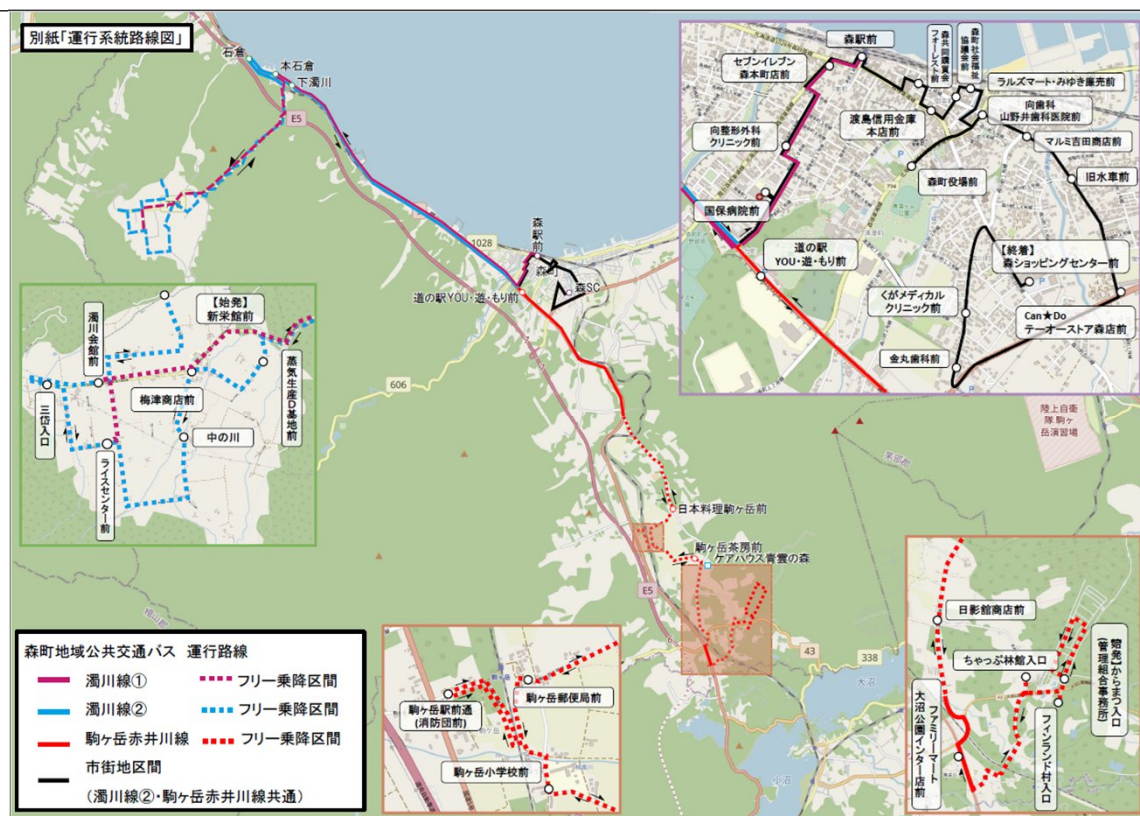
運行区間：赤井川地区～駒ヶ岳地区～森市街地 運行回数：198回 運賃：地域外での移動300円、地域内での移動100円

令和6年度事業の実施状況

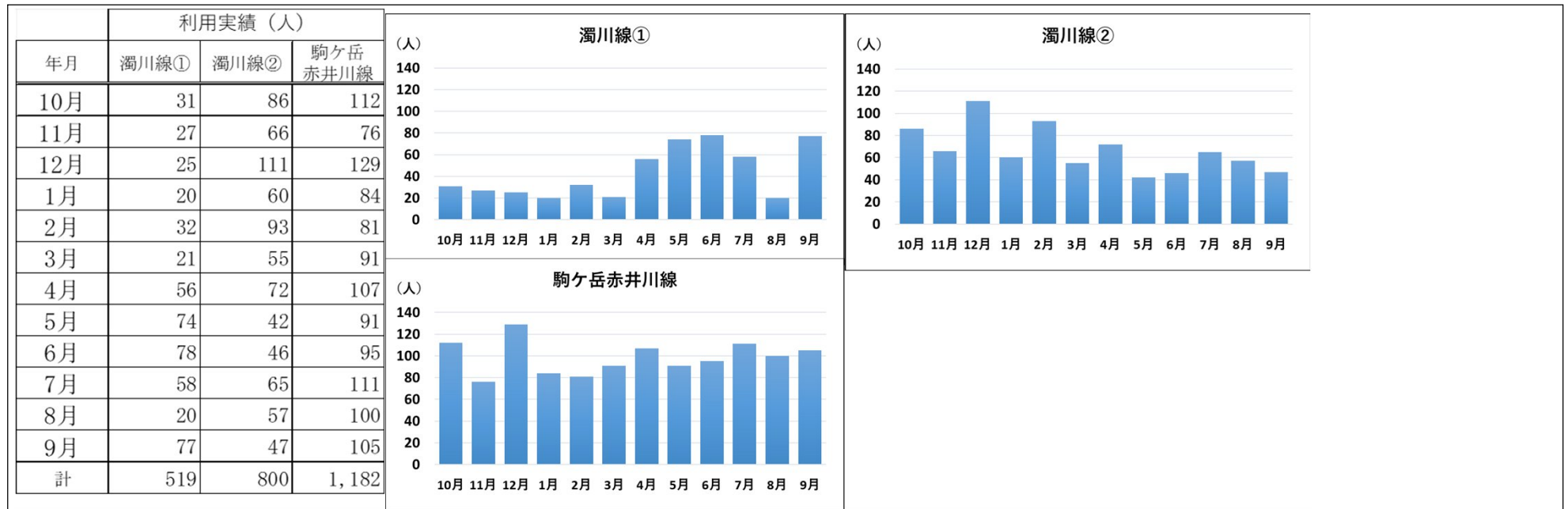
1) プロセス、創意工夫

- ・地域での意見交換会や直接の聞き取りで得た意見を基に、令和4年10月より実証運行を開始した。実証運行期間においても、バス車内での聞き取りや地域での意見交換会を行い、運行曜日・停留所等住民のニーズに合わせた本格運行の内容となった。
- ・車両について、町民に親しみを持ってもらえるようラッピングを施し、公募の上愛称をつけた。また、高齢者が乗り降りしやすいようにステップを装備した。

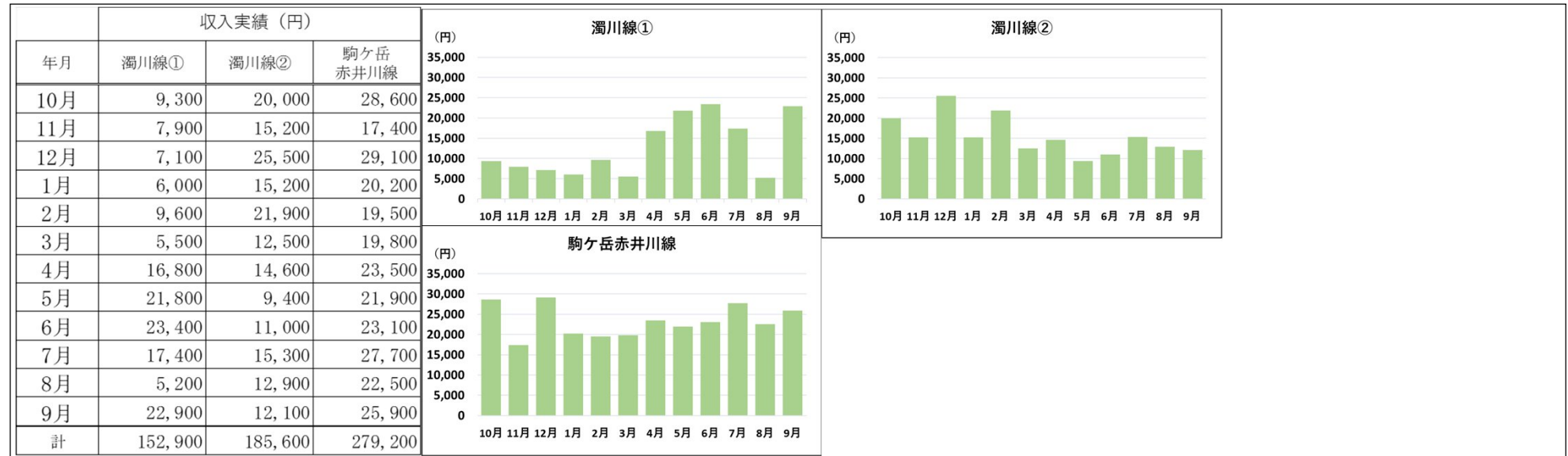
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画に登載のとおり各路線を運行・継続することができ、それにより地域住民の移動が確保され、外出促進等に繋がった。

6) 目標・効果達成状況

・濁川線①・②については、当初利用を予定していた方の市街地への転居や高齢利用者の死亡などで、目標値1,400人に対し実績値1,319人と目標数値をやや下回った。一方でルートの改善などで高校生など一定区間の利用者を取り込むなど交通空白地域の地域交通の役割をしっかりと果たせた。

・駒ヶ岳赤井川線については、目標値1,200人に対し実績値1,182人と目標数値をやや下回る結果となったが、地域交通の役割をしっかりと果たせた。

・運行収入・支出等については、濁川線が目標300,000円に対し実績338,500円、駒ヶ岳赤井川線が目標250,000円に対し実績279,200円と目標を上回ったが、森町の支出については目標8,000,000円以内に対し、実績11,917,872円と目標を超える金額となった。

・収支率については、濁川線は目標値5%に対し、実績値5.20%、駒ヶ岳赤井川線は目標値5%に対し、実績値5.16%とそれぞれ目標を上回ることができた。

7) 事業の今後の改善点

- ・町民への周知を図るため、広報やチラシなど周知回数の増加を検討。
- ・利便性の向上も踏まえて停留所やルートの改廃も必要。
- ・生活交通手段を維持・確保し、地域住民の日常生活の移動確保や地域間幹線系統との接続による広域的な移動を図るため今後も本路線は必要であるが人口減による利用見込も踏まえて今後の運行形態やダイヤの検討が懸念される。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄